

合唱「ふるさとの四季」朗読と対話形式ナレーション台本

20250612第三稿版

洲浜昌三作

ふるさとの四季

合唱



令和7年6月29日 大田市民会館中ホール

合唱 大田混声合唱団

ナレーション・語り・大田市演劇サークル劇研「空」

出演者・スタッフ

(必要なら書き加えてください)

合・唱：大田混声合唱団

指揮：茶谷垣内 隆

ピアノ：竹下千歳

合唱：

ナレーション・語り：大田市演劇サークル劇研「空」

山本和之 松本領太 吉川礼子 田中和子

松下史子 加藤正子 (冒頭朗読) 洲浜昌三

照明・音響：市民会館スタッフ

舞台監督：

台本作成：劇研「空」・洲浜昌三

写真：田中和子、加藤正子、洲浜昌三、弘志、他

合唱「ふるさとの四季」対話形式ナレーション台本について

この台本は、大田混声合唱団と劇研「空」のコラボレーション用に書いたものです。公演は「生涯学習まつり」と題して十数団体が参加し、大田市民会館中ホールで発表する予定です。「サンレデー大田」が閉館になり、市民会館の管轄で「生涯学習エリア」という部所ができ、三十八団体が登録。初めてのステージ発表です。

2月初旬に茶谷垣内さんから「ふるさとの四季」という題で十一曲の童謡を発表したいのでナレーションを考えて欲しい。「空」とコラボできないか」という依頼があり、え？と思いつながら〇しました。

以前から歌がたくさん入った劇を作ってみたという考えがありました。歌が大好きで学生時代は歌声運動の真っ盛りで、よく歌いました。歌詞の本もたくさんあります。ぼくの「人生の風景は歌とともにあり」です。

そういうことで、「死を前にしたある母の人生が歌とともに展開される」劇を書いてみたいという夢があったので、茶谷垣内さんに、立ち話で漏らしたことがありました。

〇としたものの、簡単ではありません。自由な発送で自由に書くわけにはいきません。制約があります。歌と順番は決定しています。発表時間は二団体で二〇分以内。歌だけで最低一六分。合唱団は約二十人。どんな形式で書くか考え続けていたとき、ふと映像を併用することを思いつき、書く視点とスタイル、内容が決まり、背景を調べながら書き上げました。

あくまで歌が主体で語りは従です。「空」のメンバーの意見も取り入れて修正追加して書いていますが、場合によっては更に削除や修正が必要なこともあります。特に時間の問題、映像使用不可の場合など、臨機応変に対応したいと思っています。

ここで歌われる歌は明治、大正時代に作られ、今でも親しまれている童謡です。時代は大きく変わり、歌も時代に連れて流行り廃れていきますが、日本の四季を歌った童謡は私達の心の故郷を象徴した歌として歌い継がれ、これからも大切に歌い継がれていくだろう…というテーマにして台本を書きました。(20250415 洲浜)

合唱 「ふるさとの四季」 ナレーション。語り 令和7年6月12日第3稿版（今回は映像投影はなし。洲浜）

映像・メモ等記入

←

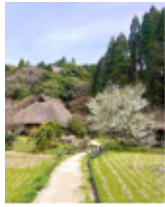
ピアノ

朗読

ピアノ

合唱

①「故郷」



※基本はA、Bの会話形式。人数が増える場合には割り振って会話形式。明るく、楽しく自然な会話。
※今回は司会者の言葉なし。ピアノ演奏（「夏は来ぬ」で始まる。画像は追加変更可能。使用しない場合もある。
ピアノの途中から（約十秒くらい）から朗読。

「歌は世につれ、世は歌につれ」…という言葉があります。時代が変われば、新しい歌が生まれ、その新しい歌が、その時代の空気を作っていくという：時代と歌の関係を表した言葉です。

戦争時代には勇ましい歌が歌われ、戦後には希望を感じる歌が生まれ、世界と交流するようになるとジャズや、ロック、フォークソングがはやり、今はJポップなどテンポの早い曲が流行り、長い間歌われた演歌は昭和の歌と言われるようになりました。でも、時代を越えて歌われる懐かしい歌もあります。

ピアノは「故郷」の前奏。続いて合唱

①「故郷」 作詞：高野辰之 作曲：岡野貞一（1914、大正3年尋常小学校6学年用）

一、うさぎ追いし かの山
小ぶなつりしかの川
夢は今も めぐりて
忘れがたき ふるさと

A
いつ聞いてもいい歌だね、「ふるさと」。

B なつかしい風景が浮かんできて、なんとなく温かい気持ちなるもんね。「うさぎおいし」…。

A ね、ね。「うさぎおいし」って、どういうことか知ってる？

B なんぞ？

A この前ね、子どもたちと一緒に歌ったんだけど、後で聞かれたんだ。「ウサギは美味しいの？」って。

B そうなんだ：実は、私も子どもの時にそう思って歌ってたんだ。

A ほんと！そういう人は多いよね。だって、山へ入ってみんなで「ウサギ追い」をしたことなんかないし、

そんな話も聞いたことがないもんね。

B そうだね、小川で小ブナを釣ったこともないし、「つつがなしや」って歌っても何のことか知らずに歌ってる。

A でも、歌いながら、なつかしい風景が浮かんできて温かい気持ちになる。（そうそう、そうだね）

B 童謡・唱歌って独特のジャンルだよ。古いけど今もみんなに歌われている。何時頃から歌われたんだろう？

A 「子どもたちの遊び歌」が発展したらしいよ。「花いちもんめ」とか、「かごめかごめ」とか。

B 大正時代には、北原白秋や野口雨情が文学的な詩を取り入れたので、国民的な歌になったらしい。

B 時代を超えてみんなに愛されているのは、そこに私たちの「心のふるさとの風景」があるからまもね。

（次は大幅にカットして2行にした）

A 雪が消えて厳しい冬が終わると、温かい日差しが注ぎ、山は若葉に覆われ、小川の岸边にスミレやレンゲが

B 咲き、サラサラと流れる小川にはエビやメダカやコブナが嬉しそうに泳いでいます。

B 黄色い菜の花が畑一面に咲き乱れ、夕日が傾くと、田植えの仕事を終えた人たちが田んぼの中の道を帰っ

B て行きます。空には霞が掛かった丸い月が浮かんでいます。

A 山の麓に赤い瓦が波のように連なり、空には綿のような雲が浮かび、空高く泳いでいるのは、「鯉のぼり」で

A す。鯉のように、広い世界で伸び伸びと育ってほしい…そんな願いを、親たちは鯉に託したのでしょう。

(では、「ふるさとの四季」、「春の歌」から三曲お楽しみください。)

合唱 春の歌三曲

② 「春の小川」



② 「春の小川」 作詞・高野辰之 作曲・岡野貞一

② 「春の小川」

一、春の小川はさらさら流る。(いくよ)

岸のすみれやれんげの花に、

にほひめでたく色うつくしく(すがたやさしく)

咲けよ咲けよとささやく如く(ささやきながら)

二、春の小川はさらさら流る。

蝦やめだかや小鮒の群に、

今日も一日ひなたに出てて

遊べ遊べとささやく如く。

文章は二人の会話形式で書いていますが、男女によって違う場合が多いので、自分にあったように修正してください。特に語尾に注意。

人数が多い場合には、流れを考えて分担を決めてください。場面によって二人の会話、3，4，5人の会話なども考えられます。ラストは全員を想定して書いています(すはま)

③ 朧月夜



④ 「鯉のぼり」



③ 朧月夜 高野辰之作詞、岡野貞作

③ 「朧月夜」

一、菜の花畠に 入日薄れ
見わたす山の端 霞ふかし
春風そよふく 空を見れば
夕月かかりて におい淡し
二、里わの火影も 森の色も
田中の小道を たどる人も
蛙のなくねも かねの音も
さながら霞める 朧月夜

④ 「鯉のぼり」 作詞：不詳 作曲：弘田龍太郎

④ 「鯉のぼり」

一、鳶(いらか)の波と雲の波、
重なる波の中空(なかぞら)を、
橘(たちばな)かおる朝風に、
高く泳ぐや、鯉のぼり。
二、
開ける広き其の口に、
舟をも呑まん様(さま)見えて、
ゆたかに振う尾緒(おひれ)には、
物に動ぜぬ姿あり。

大正〇年「尋常小学唱歌五学年用に初めて
掲載され、文部省唱歌として歌われた
三、百瀬(ももせ)の滝を登りなば、
忽(たちま)ち竜になりぬべき、
わが身に似よや男子(おのこ)と、
空に躍るや鯉のぼり。

「こいのぼり」近藤宮子作詞 昭和6年
やねより たかい こいのぼり
おおきい まごいは おとうさん
ちいさい ひごいは こどもたち
おもしろそうに およいでる

唱団照明Ⅱ ナレーター照明Ⅱ、

合唱が終わるとピアノの曲が流れ、それをバックにナレーション(予定)自然な会話。アドリブもOK。

懐かしい「春の歌」：いかがでしたか：：今の歌は3曲とも、大正時代のはじめに作られた歌です。大正といえ、百年以上も前の時代だよ。その頃作られた歌が、今もみんなに歌われているって、凄いことだよ。

そうだよ。さっきの「こいのぼり」だけど、子どもたちは、別の「こいのぼり」を歌うんじゃないの？という？

「やねより たかいこいのぼり 大きいまごいは おとうさん：：」

その「こいのぼり」は昭和6年に近藤宮子っていう女の人が歌詞を作ったらしいの。

ふーん、昭和だから言葉も今の言葉に近いのかな。

そうかもね。大正時代の「鯉のぼり」の三番は難しいもんね。「百瀬(ももせ)の滝に登りなば、

忽(たちま)ち竜になりぬべき、わが身に似や男子(おのこ)と、空に躍るや鯉のぼり」

ねえ、ねえ、童謡は子どもたちの遊びから起ったというけど、どんなものがあるかな？

例えば：：ほら：「お寺の和尚さんがカボチャの種を蒔きました」：とか。

「茶摘」もそうじゃない？

そうだね。久しぶりにやってみようか。：「夏も近づく八十八夜 野にも山にも若葉が茂る：」

八十八夜っていうのは立春から数えて88日目の日のことです。毎年5月2日頃がこの日にあたり、この日を堺にやがて立夏：：夏です。ホトトギスが海を渡って帰ってきます。田んぼでは、早乙女たちが苗を植える姿があちこで見られます。夜には無数のホタルが、ゆっくりと光の線を引いて飛び交います。

B A B A B A B A B A B A B

合唱 夏の歌3曲

⑤ 「茶摘」



⑥ 「夏は来ぬ」



夏といえば、海です。「我は海の子 白浪のさわぐ磯辺の松原に」…。
海の子ばで生まれ、波の音を子守歌のように聞いて育ち、「たくましい子どもになり、強靱な体と精神を養
って、この海の国を守っていくぞ!」…明治らしいたくましい歌です。

(では、「ふるさとの四季」…「夏の歌」から、「茶摘」「夏は来ぬ」「われは海の子」をお聞きください。)

⑤ 「茶摘」 作詞作曲ともに。

(1912年、明治 尋常小学唱歌第三学年用』が初出)

⑤ 「茶摘」

一、 夏も近づく八十八夜
野にも山にも若葉が茂る
あれに見えるは茶摘ぢやないか
あかねだすきに菅(すげ)の笠
二、 日和つづきの今日此の頃を、
心のどかに摘みつつ歌い
摘めよ摘め摘め摘まねばならぬ
摘まにや日本の茶にならぬ

三、 橘の 薫るのきばの
窓近く 蛍飛びかい
おこたり諫むる 夏は来ぬ
四、 棟(おうち)ちる 川べの宿の
門(かど)遠く 水鶏(くいな)声して
夕月(ゆづしき) 夏は来ぬ
五、 五月(さつき)やみ 蛍飛びかい
水鶏(くいな)鳴き 卯の花咲きて
早苗(はやな)植えわたす 夏は来ぬ

⑥ 「夏は来ぬ」 佐佐木信綱作詞、小山作之助作曲 (1899年、『新編教育唱歌集(第五集)』で発表)

⑦ 「われは海の子」



A

⑥ 「夏は来ぬ」

一、卯の花の 匂う垣根に
時鳥(ほととぎす) 早も来鳴きて
忍音(しのびね) もらす 夏は来ぬ
二、さみだれの そぞぐ山田に
早乙女が裳裾(もすそ)ぬらして
玉苗(たまなえ)植うる 夏は来ぬ

⑦

⑦ 「われは海の子」

一、我は海の子白浪の
さわぐいそべの松原に
煙たなびくとまやこそ
我がなつかしき住家なれ。
二、生まれてしほに浴して
浪を子守の歌と聞き
千里寄せる海の氣を
吸ひてわらべとなりけり。

(1910年明 文部省 『尋常小学読本唱歌』に初出)

「われは海の子」 作詞者・作曲者ともに不詳。

三、高く鼻つくいその香に
不斷の花のかをりあり。
なぎさの松に吹く風を
いみじき樂と我は聞く
四丈餘のろかい操りて
行手定めぬ浪まくら
百尋千尋海の底
遊びなれたる庭廣し。
五、幾年こゝにきたへたる
鐵より堅きかひなあり。
吹く鹽風に黒みたる
はだは赤銅さながらに。
六、浪にたゞよふ氷山も
來らば來れ恐れんや。
海まき上ぐるたつまき
起らば起れ驚かじ。
七、いで大船を乗出して
我は拾はん海の富。
いで軍艦に乗組みて
我は護らん海の國。

新緑の季節から青葉の季節に移り、八十八夜も過ぎました。…もう茶摘は終わりましたか…田んぼ

で裳裾を濡らして早苗を植えましたか？…。

なに言っただよ。今は令和だよ：稲の苗なんて機械で一気に植えてしまふよ。

そうだね：でも、毎年見ているような気がしない？…。するでしょう？…しない？…。

「しないけど：でも何百年も続いた大切な懐かしい農村の風景だね。

「祭り」も季節の変化のなかで行われた日本特有の行事だよ。豊かな実りを祈って行われる「春祭」や「夏祭り」。収穫に感謝して行われる「秋祭り」：…お店が沢山でたり、夜通し神楽が舞われたり、子どもたちはとても楽しみにしてたよね。：…昔は学校は休みになったんだって。

そう：学校より村の祭りが大切だったんだ！

うらやましい！

ところで、現在島根に「村」はいくつあるでしょう？…今は隠岐の島に一つ：「知夫村」だけなんだって。そうなんだ。それぞれの村には神社があり鎮守の森があり、広場があり：…そこは子どもたちの遊び場でもあった。子どもたちは「村ってなに？」って聞かもしれないね。

時代はどんどん変わっていくからね。言葉も分からなくなる。変わらないのは四季の風景だね。

日本の四季は美しいって、よく言われるけど、何でだろ？

海、山、川：地形が変化に富んでいる上に気候の影響を強く受けるので、春、夏、秋、冬：風景も変化に富んで、印象に残るからじゃないかな。

桜の春、夏の海：松や杉やクスなどの常緑樹の緑とモミジやイチヨウ、ナラ、ケヤキなど落葉樹の様々な色が織りなす美しい秋の山や町：…その色鮮やかな風景が一面の真っ白い雪景色に変わる冬…。

そんな四季の移り変わりが、人々の生活や生き方、風習や文化にも影響を与え、深く根付いているのが特徴かもしれないね。：… ね、ね、「雪」を歌ってみて。

…なんて？…（「なんでもいいから」：…ゆきやコンコン あられやコンコン…

A B A B A

ストップ…いま、雪やコンコ 霰やコンコ…を…コンコンってうたったよね。コンコンって何のこと？
雪が降る音だろう？

ええ！？ 雪が、コンコン音を立てて降るのを聞いたことがある？

ははは、ないね。…なんてだろ…子供の時から雪が降る音だとおもってたよ…

コンコンというのはね、「来ム来ム」…「もっと降れ降れ」という気持ちを表したものが、変化したらしいの。…方言だという説もあるし、滝廉太郎は、「雪やこんこん」という歌を残しているので、
「コンコン」も間違いじゃない。（よかった！）

合唱 秋の歌 2曲

⑧ 「村祭」



⑧ 「村祭」

一、村の鎮守ちゃんじゅの神様の

今日はめでたい御祭日

ドンドンヒヤララ

ドンヒヤララ

ドンドンヒヤララ

ドンヒヤララ

朝から聞こえる笛太鼓

二、年も豊年満作ほまんさくで

村は総出そうでの大祭

ドンドンヒヤララ

ドンヒヤララ

ドンドンヒヤララ

ドンヒヤララ

夜までにぎわう宮の森

⑨ 「紅葉」



⑨ 「紅葉」

高野辰之 作詞・岡野 作曲 中野義見 編曲（明治44年 小学校第2学年用）

合唱 冬の歌2曲

⑩ 「冬景色」



⑪ 「雪」

⑨ 「紅葉」

一 秋の夕日に
てる山もみじ
こいもうすいも
数ある中に
まつをいろどる
かえでやつたは
山のふもとの
すそもよう

二 谷の流れに
ちりうくもみじ
波にゆられて
はなれてよつて
赤や黄色の
色さまざまに
水の上にも
おるにしき

⑩ 「冬景色」 作詞作曲ともに不詳。4分の3拍子（初出は1913 尋常小学唱歌教材第5学年用）

⑩ 「冬景色」

一、さ霧消ゆる湊江（みなとえ）の
舟に白し、朝の霜。
ただ水鳥の声はして
いまだ覚めず、岸の家。
二、鳥（からす）啼（な）きて木に高く
人は畑（はた）に麦を踏む。
げに小春日ののどけしや。
かへり咲（ざき）の花も見ゆ

三、風吹きて雲は落ち、
時雨（しぐれ）降りて日は暮れぬ。
若（も）し灯火（ともしび）の漏れ来ずば、
それと分かじ、野辺（のべ）の里。

「雪」 作詞は、国文学者の武笠三。作曲者は不詳。（明治44年尋常小学校2学年用）

『池の鯉』『案山子』などの作詞も担当）



D C B A D C B A E

⑪ 「雪」

一、雪やこんこ 霰あられやこんこ

降つては降つては ずんずんつもる。

山も野原も 綿帽子わたばしかぶり、

枯木かれき残らず 花が咲く

二、雪やこんこ 霰やこんこ。

降つても降つても まだ降りやまぬ。

犬は喜び 庭駈かけまはり、

猫は火燵こたつで丸くなる。

春、夏、秋、冬…それぞれ懐かしい歌を聞いて頂きました。

さて…「ふるさとの四季」…忘れてはならない歌があります。

※次の文は、二人なら交互に朗読。人数によって朗読箇所を分担する。

多くの人たちが、ふる里を離れ、都会へ出ていきました。

日本の発展と繁栄は、そういう人たちによって支えられてきました。

志を抱いてふる里を離れ、夢を実現した人もいるでしょう。

志を抱いてふる里を離れ、夢が破れた人もいるでしょう。

壁にぶつかって挫折し、悩み、苦しみ、孤独の底に沈んだ時もあるでしょう。

悲しい時、泣きたい時、人が信じられない時もあるでしょう。

いつの日にか、いつの日にか、志を果たして…

ふる里は、澄み渡った空のもと、何も言わず昔のままの姿で、そこにある。



⑫ 「故郷」

一緒に
B A E

春、夏、秋、冬・・・季節ごとに美しい装いを見せる山
あちこちで咲き香る季節の花、どこからともなく聞こえてくる鳥の声。
父母、祖父祖母、兄弟姉妹、友達、お世話になった数々の人たち。
みんなが待っている懐かしいふるさと・・・

⑫ 「故郷」

作曲・岡野貞一 作詞・高野辰之 1914(大正3)刊行の「小学唱歌」に掲載

⑫ 「故郷」

二 いかにいます 父母
つつがなしや 友がき
雨に風に つけても
思いいずる ふるさと
三、こころざしを 果たして
いつの日にか 帰らん
山は青き ふるさと
水は清き ふるさと

照明、フェイド、アウト。合唱が終わると、礼をして退場

※20250425「大田混声合唱団・「空」用第一稿版 洲浜昌三

※20250525 // 要望があり全面对話形式で統一。第2稿版 洲浜昌三

※20250612 初めての合同練習を終えて話し合いの中で、冒頭部の復活や時間のため

長い朗読部分を短くしてほしいという要望があり、「空」の会合で話し合つて

季節の説明部分を中心に部分的にカットした。読み合わせ十一分十五秒。洲浜